

3月18日 第3回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色、あめの種類：① 赤色、② ミツ矢サイダーキャンディ

■有識者委員：佐藤克之委員

■市民委員：①赤色…景山奨委員、岸本佳廣委員、草野靖広委員、島本和夫委員、
寺田外治委員、中野和代委員

②ミツ矢サイダーキャンディ

…佐藤幸子委員、佐藤尚人委員、前後稔委員、高儀武志委員、
野戸谷睦委員、山田明美委員

■意見の概要

〈赤色：洪水・避難所マップの情報を活用しながら、意見を発表〉

〈ミツ矢サイダー：前回までの意見を踏まえ、実行するためのアイデアを提言として発表〉

【防災関係：情報提供・共有】

〈赤色〉

○液状化の恐れがあるなどの地域ごとの地盤の特色・特徴の把握が必要。

○弱者をどのように助け出すか。「個人情報保護」を打ち破るような仕組みが必要ではないか。

○住んでいる地域の防災状況の情報提供や周知、情報の共有化をはかる必要がある。自治会単位でまとめて情報を流していくなど身近な地域で対応しないと、民生委員だけでは難しい。

○ハザードマップの細分化。

・昔から江別に住んでいる人は、江別の地盤などに詳しいが、住んで10年未満の人たちのところは大丈夫だと思っているだけで、実際は何も知らない。もう少し情報がほしい。

【防災関係：対策】

〈赤色〉

○小中学校の空き教室を活用し、防災備蓄できないか。民間企業と災害時に協定を結んでも交通網が遮断されたら物資は届かない。自治会単位で備蓄しているところもあるが、小中学校は避難場所にもなっているので、ある程度のものを備蓄するべきではないか。

○学校を利用した避難場所設定。学校の利用。

○江別の災害は洪水を想定したものであり、冬場を想定したものではない。東日本大震災のような冬に起きる災害に対する備え、設備などの対策を考える時期ではないか。

○冬の災害（地震・雪害）を前提にしたまちづくりをする。（除・排雪）

・行政は、避難場所に指定している建物の耐震問題を解決する必要があるが、市民は各自の家で最低限のものは用意するなど準備する必要がある。

・除排雪など雪害に備えた対策をする必要がある。家の周りの排雪を民間業者に依頼しているところが多い。そういう地域の道路はきれいになっているので、車も走りやすいが、各自、業者に払っているお金を使って、違う仕組みを考える時期ではないか。

【農業の活性化】

《三ツ矢サイダー》

- 農業生産物を使った商品開発やイベントの実施。（農業・大学・企業の連携）
- 江別を代表する農産物の開発を行う。
- 地産地消のマーケティングの開拓を行う。
- 江別の農産物に関心のある企業を募り、地元の農産物を生かすための製造工場をつくる。
- 農業と産学を一体化する。江別で買って、食べられるまで。例えば、うどん、ラーメン、パスタなど小麦だけでまちおこしができる仕組みをつくるなど。
- 江別小麦を活用した「江別ビール」のPR。
- 昨年開催し盛況だったB級グルメ選手権を定例化し、江別産をPRする。
- 道の駅をつくり、そこでおすすめ食材やゆるキャラ「えべチュン」グッズを売るなどしてPRする。また、江別に来たらこれという食事をする場所をつくる。
- 江別駅前に地産地消のレストラン街をつくり、味わってもらおう。
- 農家に江別の農作物を利用した食事ができる民宿を開いてもらう。

【観光】

《三ツ矢サイダー》

- 石狩川の雄大な流れを眺められるポイントにお茶が飲めるような場所をつくり、人を呼び込む。
- 河川を利用してカヌー等で遊べるようにする。
- もっと足を運びやすい場所に美術館やアート通りをつくり、学生の作品を展示する。学生は制作意欲が増し、市民は作品に触れる機会ができるのではないか。
- やきもの市の時だけではなく、やきもの通りをつくり、手頃な値段でやきものをいつでも手に入れることができるようにする。
- 学生を募集して観光プロジェクトをつくる等、若い人のアイデアを活用する。
- 市内観光バスツアーなど1日めぐるようなツアーを企画する。最初に宣伝を大きくしないとわからないで終わってしまう可能性がある。農学体験や銘木百選ツアーなど。
- 北海道有形文化財に指定された土偶を活用する。
- 各分野において、著名な人々と江別のコラボ（ゆうばり映画祭のように）
- 江別駅も改装するように努力すべき。

〔・防災ステーションをもっと使えるようにしないともらいたくない。〕

【スポーツの活用】

《三ツ矢サイダー》

- ご当地マラソンを開催し、目抜き通りに市民全員で応援するなど市あげてのイベントにする。（岐阜県揖斐川町はいびがわマラソン開催日を登校日にし、ブラスバンド等でおもてなしをしている。）

○北電サッカー場の「ノルブリック北海道」をたくさんの方が応援できるようにする。若者たちが「えべつ、えべつ」とサッカーチームを応援することによって、知名度をあげる。

【目玉をつくる】

《三ツ矢サイダー》

○教育特区をとり、魅力的な小学校、中学校、例えばスーパーサイエンス校にするなど「学力があがる」「スポーツがすごい」「音楽がすごい」等、何か魅力をつくり子育て世代を呼び込む。そのためには、中高一貫教育や小・中・高・大の連携、コミュニティ立の学校をつくるというのも一つの方法ではないか。

○大麻・文京台地区を早稲田大学前みたいな町にし、学生が定着するようにする。

【情報発信】

《三ツ矢サイダー》

○情報図書館をもっと目立つようにし、情報発信源にしたらどうか。

【企業立地】

《三ツ矢サイダー》

○江別は土地が広いので、物品集配センター等を誘致してはどうか。

■グループの色、あめの種類：① 青色、②いちごみるく

■有識者委員：千里政文委員

■市民委員：①青色…相田晶子委員、笹原邦子委員、佐藤幸子委員、高橋正生委員、
深谷亮一委員、峯田智也委員

②いちごみるく…大作美佳委員、景山奨委員、志水有希委員、寺岡秀一委員、
中村紘子委員、山崎智行委員

■意見の概要

[駅周辺整備]

《青色》

○駅周辺の整備。

- ・野幌駅の旭通のところは、T字路になっているので早めに信号機を付けないと事故につながるおそれがある。
- ・新しくできた中原通のアンダーパスは、豪雨時の排水は大丈夫か。江別は沢地だったところが多い。かつて沢地であったところは水に浸かりやすい。
- ・江別が札幌のベッドタウンであるならば、札幌へ通勤する若い世代のために駅にしっかりとした市の保育施設を併設すべきである。

○江別駅周辺の開発をしてほしい。駅を人の集まる場所にしてほしい。

- ・江別駅舎を建て替えるときには、デイサービス、病院や託児所など入った複合施設にしてほしい。

○江別駅前または商店街にやきもの街をつくってはどうか。(レンガを使った商品など。)

○うまいもの案内マップを市できちんと作成し駅に配置すべきである。駅に行っても江別のどういうところで観光ができるのか分からない。パツとした観光マップが配置されていない。駅に寄ると食事ができるのも良い。

○江別市内で買い物をしたい。江別の農協が撤退するため、江別地区で買い物ができなくなり、生活できなくなるため、住民が別な地区へ移動してしまう。

○経済基盤の強化を行うべき。重点分野の指針を明確化すべき。

- ・駅周辺に物を造るという発想から抜ける必要があるのではないか。企業が入りやすい土地に企業を誘致して、地元での雇用を含めて考えるべきである。

○不要な道路整備、地下通路は要らない。

- ・6丁目の踏切は、歩行者が通るアンダーパスになるというが、犯罪が発生する可能性が高いのではないか。江別駅側の12号線の地下歩道は、人がほとんど通っていないために犯罪が起こっていないのであって、アンダーパスが安全であるという理由にはならない。人の目の届かない所には、危険が多い。

《いちごみるく》

○駅舎内、駅付近の活性化（店、保育園、高架下駐車場など）。札幌のベッドタウンなのに、駅周辺の機能が札幌で働く人のためになっていない。

〔・江別、野幌、大麻という駅を中心とした人の活動・動きになると良いのではないかな。〕

【観光・魅力】

《青色》

○江別の観光を充実させる。（人の集まる市に。）

○中心街に美術館、アート通りをつくってはどうか。（学生作品を展示するなど。）

○地産地消で素通りの街を再生する。札幌方面へ向かう場合、あと15～30分ぐらいで札幌に着いてしまうため、江別でお金を落としてもらえない。

○江別の顔は、箱物を造ることではないはずである。

○平日の人口確保へ。魅力となる拠点の模索をしてはどうか。

〔・江別を盛り上げて、まずは魅力的な街にすることが必要である。箱物よりもソフト面の対応に力を入れるべきである。原始林の活用なども良い。〕

○原始林周囲の整備、ぐるっとジョギングコース、散歩コース、サイクリングコースなど。原始林の中の整備もしてほしい。不法投棄が見られるため、管理をきちんとすべきである。

〔・原始林の大沢口の駐車場が狭いため、大勢の利用にふさわしいように整備すべきである。〕

〔・鉄道林は、原始林とつながっていた時代の名残であり、貴重な植物が生息している。〕

○やきもの市、B級グルメグランプリ、スノーフェスティバルなど、目玉となるイベントをしっかりと宣伝して行う。

○出展者の都合もあるだろうが、やきもの市の開催期間を延長できないか。イベントが一つだけで完結してしまっている。

○個々人がつながる方法は？集まる行事。

〔・セラミックアートセンターへ行きづらい。〕

《いちごみるく》

〔・江別は、売りとなるものが分散している。小学校の交流で文京台小学校へ行ってみると、天文台（天体望遠鏡）の設備がある。こういうものをもっと市民へ知らせたり、夜間開放を行ったりしてはどうか。市民へ情報が流れてこない。〕

【交通】

《青色》

〔・バスの路線が、市内をヨコに走っていて、タテに走ってくれない。〕

《いちごみるく》

〔・バスがないから車を使う。バスは、ぐるっと遠回りしてから目的地に到着する。駅が遠いので自転車を使う。市内の交通機関は大きな課題である。〕

- ・バスについて、見晴台方面から駅へ直接向かってほしい。文京台南から野幌へ行けない。
 - 全天候型のサイクリングロード（歩行者の通行も可能）を市内につくってはどうか。
- 〔・既存のサイクリングロードの整備をしてはどうか。〕

【防災】

《いちごみるく》

○冬の避難場所、避難所としての機能、災害時の備蓄は大丈夫か。

- 〔
- ・避難所が適切な場所にあるのかどうか。避難所に指定されている公園は、冬季は雪捨て場になっており、避難所として機能するのかどうか疑問である。冬の避難場所、避難計画をきちんと考えてほしい。災害時の暖房とトイレは大変重要である。
 - ・災害時の情報伝達手段として、アナログと最新機器との組み合わせが大事。携帯電話で掲示板に貼ってある情報を画像に撮って、避難所の周囲の人に広げるなど。ローカルFMの活用はどうか。
 - ・災害に向けた対応（交通環境の整備）が大切。
- 〕

【除排雪】

《いちごみるく》

- 〔
- ・12号線以外の幹線道路の除排雪をなんとかしてほしい。特に冬の3番通の状況はひどい。市道が軒並み雪で覆われているのに、市役所の建設部前の道路がいつもきちんと除排雪されているのはなぜなのか。
 - ・冬に歩道を付ける道と付けない道の差が大きい。
- 〕

【その他】

《青色》

○子どもの数が少ないことを理由に、学校を統廃合することは良いことなのか。

○その他

- 〔・市役所は、1回で用事が済まない。〕

■グループの色、あめの種類：① 黄色、② カルピスキャンディ

■有識者委員：河西邦人委員

■市民委員：① 黄色…石栗和典委員、志水有希委員、寺岡秀一委員、水野功委員、山崎悟委員、山田明美委員
② カルピスキャンディ…相田晶子委員、草野靖広委員、島本和夫委員、内藤裕貴委員、名和靖子委員、峯田智也委員

■意見の概要

【災害】

《黄色》

- 防災では災害時に対応できる公共施設の整備状況が重要である。
- 災害発生時の避難方法などの手順を明確にしてほしい。
- 防災マップに避難経路だけでなく、食糧・毛布などの備蓄についても記載してほしい。
- 災害情報の伝達方法について、電子メールやインターネットを活用できないか。広報車による伝達などだけでは不安。
- 水害発生時の現実的な避難場所の設定が必要ではないか（ハザードマップで被害想定地域の公園が一時避難場所に設定されているが意味がない）。
- 安心・安全なまちづくりを進め、それを江別市のイメージとして発信していく。イメージが定着することで定住にもつながる。（レンガなどのイメージ含め）

《カルピスキャンディ》

- 防災マップに建物の耐震強度も表示してほしい。
- 防災マップに耐震強度や水没する場所を記載してほしい。

【ウォーターレジャー、親水公園】

《黄色》

- 河川のある街として川を活用していくという意識が低いのではないか。川への恐れが大きい。

〔・ヤツメウナギが採れることもあまり知られていない。（HTB ドラマ「ミエルヒ」などでも取り扱われたが、設定が江別市であるということは隠されていた？）〕

《カルピスキャンディ》

- 川を利用する。防災の観点ばかりで整備されているが、その中に水と親しむための施設をつくる視点を入れる（親水公園、カヌー体験、パークゴルフ、ホテル見学など）ことで、子どもが遊べるようになり、江別に来てもらうこともできる。

〔・カヌー体験などニセコで行われていることをより近くの地域で体験できることが売りになるのでは。〕

【まちづくり】

《黄色》

- 札幌スマイルのようなシティプロモートを行ってはどうか、そこで安全安心が伝わるとそのようなまちとして住んでもらえる。
- 札幌競馬場は都心部にあり、札幌市にとっても、土地の有効活用の観点から、江別に誘致する方が良いのではないか。
- そもそも市全体の街づくりの方向性をはっきりさせずにそれぞれの地域を整備してきたことが問題である。街づくりの方向性を再構築して、地区ごとに特徴を持たせる整備を行うべき。
- 公共施設が分散していて規模が小さい。3地区にそれぞれ設置するのではなく、どこかに集中して大きな施設をつくる必要がある。
- 今後10年間のことを考えると、特定の地域に集中して整備すべき。
- 野幌駅周辺は駅舎が新しくなっただけ、駅周辺に商業施設なども集中するべき。
- 江別駅周辺（駅前）は住宅街にしてはどうか。
- 文京台はどのような地区になるべきか→学生の活用が言われているが、市民にとっては交流の機会が少なく、入り込みにくい印象がある。

《カルピスキャンディ》

- 公共施設の整備は既存施設を利用して、無駄のない手法で行うべき。効率的な手法を検討してほしい。
- 学生たちが4年間楽しく過ごせるまちづくり、地域とのかかわりを持てるような街に。
- まちづくりで施設を集中させるということは、それ以外の地域の人が不便にならないよう、ワンコインバスのようなものを整備してほしい。バス停が無くても、手をあげてどこからでも乗れるような交通機関があるとよい。
- 大きな公園がない、ヨーロッパにあるものや、札幌の農試公園のようなイメージのもので、子どもだけが利用するのではなく、多くの人がゆったりと過ごせるようになると良い。
- PMFの誘致を行い、音楽による街づくりを行うことはできないか。PMFの開催地は札幌だが、周辺の自治体を会場として行われているものもあり、誘致できるのではないか。
- 札幌から簡易モノレールを引き、角山地区に競馬場を誘致して国道275号線周辺地域を活用して、この地域の活性化も図ることができるのではないか。
- 有名人によるふるさと納税を行ってもらおう。

【観光】

《黄色》

- イベントが少ない。大規模なイベントを開催するための会場が少ない、イベントで人が集まるための施設を。

○宿泊施設が無いことも問題となる。夕張市のように廃校舎や民家への宿泊を利用することもできる。

《カルピスキャンディ》

○野幌原始林へのアプローチの整備が必要。札幌側からは入りやすいが、江別側の入り口があまり整備されていない。もっと市内外の人が気軽に楽しめるように整備し、それを広くPRしてほしい。

○原始林周辺のフットパスの整備をする。

○原始林の素晴らしさをもっと伝え、利用してもらう。原始林を利用した「自然環境学習ツアー」を企画しプロモートする。ボランティアガイドは地元の人や大学生にも協力してもらう（大学の協力・了解のもと学生の単位として認められるとよい）。

○運動公園や江別高校跡地を利用して、やきもの市、B級グルメ、スノーフェスティバルなど、メインとなるイベントを毎年しっかり行う。意外と札幌市からスノーフェスティバルに子ども連れで来ている人もいる。何かを見に来る観光ではなく、人と人との交流ができるイベントを観光として続けていくことが大切なのではないか。

○江別にはいろいろと資源がある。江別にしかないもの、知られていないもの、利用しづらいもの、これらをまとめて観光としてパッケージ化する必要がある。これは民間でなければ実現しないのではないか。

【農業】

《黄色》

○遊休農地で若者による野菜作りを行う。泥炭などを利用してハウスなどの暖房をすることで通年の農業を行うことも考える。

○インターネットを利用して、東京など首都圏の人に農地を貸して、世話を請け負う。ウェブカメラで畑の様子を流すなどすることで、自分の畑であることを実感してもらう。将来的に移住にもつながるのではないか。

《カルピスキャンディ》

○国内向けには放射能汚染を意識していくべき。

○東京の世田谷区から入植した方々がいることもあり、ピンポイントであるがその結びつきをPRして、災害時は世田谷の人に野菜などを送ったり、避難者を受け入れたりする。

○野菜を冬に貯蔵する設備をつくる。雪を利用することで貯蔵の経費が安く済む。札幌圏向けの出荷を意識。江別の野菜のウリにしていく。江別の新しい産業につながる。

〔・江別にたくさん降る雪を利用する→北と南の温度差を利用して出荷時期を決める。〕

○雪を利用したヒートポンプによるエネルギー利用も検討できる。→大学との連携にもつながる。

【全体】

《カルピスキャンディ》

○地方都市は概して小さな東京をめざし、北海道の中核都市と言われる街も小さな札幌をめざして発展してきたが、これからの江別は「小さな札幌」にならない。

3月18日 第3回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色、あめの種類：① 緑色 ②バヤリースキャンディ

■有識者委員：押谷一委員

■市民委員：①緑色…小島忍委員、齊藤良枝委員、佐藤尚人委員、内藤祐貴委員、
中村紘子委員、野戸谷睦委員

②バヤリースキャンディ

…石栗和典委員、佐々木愛委員、神千加委員、高橋正生委員、
寺田外治委員、松本教子委員

■意見の概要

[湯川公園を有効に活用するには]

《緑色》

○湯川公園を「道の駅」にして野菜直売所などを設置する。

○江別小麦を使ったうどん・ラーメンをウリに顧客獲得をする。

〔・冬場の公園にスケートリンクをつくる。
・道の駅的な施設は多数の人が集まるので、周辺に住んでいる人には良し悪しの面もある。〕

《バヤリースキャンディ》

○ハルユタカなどの農産物を販売する。

○子どもの遊び場を増やし、食事の出来る場所をつくると、利用が増えるのではないか。

〔・火を使える公園があると、憩の場となるのではないか。〕

[河川防災ステーションを有効に活用するには]

《緑色》

○水辺で遊べ、自然に親しめるような環境調和型の子育て支援の空間にする。

〔・河川防災ステーションはPR不足。
・河川防災ステーション周辺を親水空間にする。〕

《バヤリースキャンディ》

○河川防災ステーションを水害体験、カヌー体験、直売所等で幅広く活用する。

○立地条件を生かして河川防災ステーションを広くして道の駅にする。

○江別を知ってもらうために、河川防災ステーションのネーミングを新聞・インターネットなどで全国的に募集する。

○石狩との間を往復する船を運航し、発着地の川沿いに屋台村をつくる。

[どのようにしたら江別に定住するか]

《緑色》

○コープさっぽろの成功例を生かして積極的に企業誘致をする。

○豊かな自然環境を活かした特色ある教育で、子育て世代が子どもと定住するようにする。

- ・教育について魅力的で、親子連れが移住してくるような市に（吹奏楽・スポーツなどで特色を出す）。
- ・野幌小学校は教育方針に特色があるので、それを活かす。

《バヤリースキャンディ》

- 江別に住みたいと考えている通勤者向けの子育て対策が必要。
- 子どもと定住してもらえらるなら家賃を無料にするなどの特典をつけた定住策で全国にアピールする。
- 市営住宅や戸建住宅の空室、空家の対策が必要。
- ・ 駅前に保育園があるとよい。
- ・ 市営住宅の改修、空き家売買の斡旋を行う。
- ・ 大麻の空き家を賃貸に出して空き家を埋める。

[江別にお金を落とすようにするには]

《緑色》

- 江別恵庭線に面した所に農産物直売所をつくる。

《バヤリースキャンディ》

- 市自体に観光の特色となるようなウリがなく、観光資源を生かしていない。
- セラミックアートセンターやガラス工芸館などの江別の観光名所を巡るおみやげ付き、昼食付き、温泉（湯の花、たまゆらなど）付きのバスツアーを企画する。
- ・ 国道もJRも江別をスルーしてしまうので、原始林や道の駅などに観光バスだけでも止まるようにする。
- ・ 駅に観光名所や名店の情報を掲示する。
- ・ インターネットで畑の状態を常に見られるような貸し農園のオーナーを募集する。いずれは江別を移住先とするかもしれない。

[高齢者について]

《バヤリースキャンディ》

- 高齢者施設と幼稚園を同施設にし、世代間交流を図る。
- おせっかいな人が中心となって老人同士が常に助け合うようにし、1人にさせない。
- グループホーム・入所施設の避難時の対応策を考える必要がある。
- 地域ごとに独居高齢者世帯の方の避難対応策を考える必要がある。

3月18日 第3回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色、あめの種類：①ピンク色、②ライオンバターボール

■有識者委員：佐々木貴子委員

■市民委員：①ピンク色…大作美佳委員、梶井正夫委員、佐々木愛委員、前後稔委員、名和靖子委員

②ライオンバターボール…小島忍委員、諏訪部容子委員、中野和代委員、深谷亮一委員、山崎悟委員

■意見の概要

【情報発信】

《ピンク色》

- 埋蔵文化財センターの土器、文京台小学校の天文台、四季の道は知名度が低い。
- 特色のある市内の公園（木製遊具・花見可・カセットコンロでの焼肉可・長い滑り台・タコの遊具・ジャングルジムが大きい・敷地が広い）が多い。⇒公園マップを作ってはどうか。⇒さらにトイレがきれいだとそれ自体がウリになる。
- イベントなどの一年間の行事予定表を作成。⇒ごみの回収日カレンダーと一緒にするとみんなが見る。
- 現状では市内のことを知るのにママさんネットワークが活用できる⇒市役所が情報発信のために正式に依頼してはどうか。
- 野菜等の直売所があるのに知られていない。⇒スタンプラリーイベントをやっているが、それすらも知られていないので、もっとPRが必要である。
- 角山のチーズづくり体験も知られていない。

【観光・名所・名物】

《ピンク色》

- 防災ステーションの道の駅化は無理としても、道路や周辺の土地の利活用によって江別の起点にできるのではないか。
- たとえば埋蔵文化財センターでは、火おこしや勾玉作りの体験ができるが、その周辺や中に食事ができるところがないので、結局江別にお金は落ちないし、午前午後を跨いでの活用ができない。そもそもそこがネックで人が来ない。そのような施設が江別には多い。
- 菊水ラーメンにとんでんファームのチャーシューを入れるなど、あるものを組み合わせることで価値を高められないか。
- 江別スイーツやパンをもっと各所でアピールしてはどうか。
- 江別れんがと江別小麦、江別の野菜やチーズでピザを作ってアピールできないか。
⇒埋蔵文化財センターやセラミックアートセンターで売り出してはどうか？

・やきもの市を焼物だけのイベントで終わらせず、江別スイーツなどとコラボレーションさせて開催すれば、若者も集まる（まず、来てもらうことが大切）。

《ライオンバターボール》

- 酪農公社の牛乳は道外へ出荷されてしまい、市民には手に入らない。
えぞ但馬牛も江別で出産はするが、市内で消費されない（札幌の高級レストランへ）。
- エベワンのような単発のイベントや江別ブランドなどは大手の企業や他都市に取られない工夫をしなければならない（アロニアは旭川に取られた）。
- 付加価値を付けて産業の質を向上させる（例：ドングリの木を植樹⇒実を子どもにイベントなどを開催して拾ってもらう⇒市内の養豚業者に提供し、イベリコ豚に）。
- 今あるものをつないで（組み合わせで）人集めをする。
- 防災ステーション付近に夏は水遊び、冬はスケートの出来る親水公園を造る。
- 野幌小学校の木造校舎や自然を生かせないか。

【文化・教育】

《ライオンバターボール》

- 例えばスポーツ振興会というようなものをつくり、江別はスポーツが盛んなので専属の指導者を養成し、場合によっては外部講師を雇い、各学校を巡回してもよいのではないか。また、大会等も市内で開催するために、宿泊施設を整備するとよい。
- 江別は吹奏楽が盛んだった時期もあるが、定着には専門的な指導者が必要である。
〔・野幌小学校のような特認校は現代においては魅力になりつつある。〕

【キャラクター】

《ピンク色》

- 消防のレスキューマンをもっと活用して江別をPRできないか。
- えべチュンを市で公認し、市内バスの外装や鳴き声のなる停車ボタン・えべチュンのうた等各所で活用したほうがよい。
- えべチュンの歴史を「れんが」の歴史になぞらえて作れば江別市自体のアピールにもなる。

【まちづくり】

《ライオンバターボール》

- 市役所には公平が求められるが、会社なら良い意味でのえこひいきができるので、まちづくり会社を設立してはどうか。
〔・江別スローフードの提唱（例：毎週日曜は家族で夜ご飯を食べる街にする）。〕

【産業】

《ピンク色》

- 定住人口を増やすためには市内の雇用が増えるような会社を立ち上げ、職場をつくる必要がある。

《ライオンバターボール》

- 都市型の農業を生かして雇用につながる産業を作っていけないか（RTNパークには本腰を入れて企業誘致しているのか）。

3月18日 第3回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色、あめの種類：①水色、②ミルクィのど飴

■有識者委員：隼田尚彦委員

■市民委員：①水色…神千加委員、諏訪部容子委員、高儀武志委員、松本教子委員、山崎智行委員

②ミルクィのど飴…梶井正夫委員、岸本佳廣委員、齊藤良枝委員、笹原邦子委員、水野功委員

■意見の概要

《水色：『洪水・避難所マップ』を見ながら意見を提出》

《ミルクィのど飴：水色で出された意見をベースに更に意見を出す》

[マップ等での情報提供]

《水色》

○活断層の情報もマップに入れて提供して欲しい。

○埋立地等の軟弱地盤で液状化現象が起きそうな場所がどこか、マップで情報提供して欲しい。

《ミルクィのど飴》

○（川の氾濫だけでなく）市街地で集中豪雨などにより浸水しやすい場所がどこか、マップで情報提供して欲しい。去年のゲリラ豪雨で幸町付近はかなり冠水した。

[避難所]

《水色》

○古い小学校などは避難所として適しているのか。耐震性は大丈夫か。

○公園が1次避難場所に指定されていても、冬期間は雪捨て場になっており、とても避難できる状態ではない。

○避難所は周辺地域の人口によってバランス良く指定されているか。

《ミルクィのど飴》

○マンションやビルなど頑丈な建物について、小学校等に替わる1次的な避難所として市と協定を結ぶことはできないか。

[高齢者の避難]

《水色》

○災害時に支援が必要な高齢者等を把握できていないのではないか。

○老人ホームやグループホームの避難がうまくいくかどうか、地域住民のサポートが重要。

《ミルクィのど飴》

○高齢者などの地域の情報は、昔の同級生などから得られることが多い。

〔・要支援高齢者の情報が少なく、DIGをやってもマッピングできない。〕

【コミュニティ・コミュニケーション】

《水色》

○パークゴルフやゲートボールを通じてコミュニケーションが取れたらいい。

○地域にサロンのように気軽に集まれる場所があると良い。

〔・災害時に支援するにしても普段からの交流やコミュニケーションができていないと、うまくいかない。〕

〔・最近交流したがない人も多くなってきた。〕

〔・老人クラブは比較的若い高齢者が入らないので、超高齢化している。〕

〔・地域におせっかいな人が少なくなってきた。〕

〔・おせっかいな人達がネットワーク化してリーダーシップを発揮して欲しい。〕

【個人情報】

《水色》

〔・個人情報保護のカベにより要支援者の情報が入手しづらい。〕

《ミルクィのど飴》

〔・個人情報保護になってから、自治会で子ども達の名簿も作れなくなってきた。〕

〔・個人情報保護になってから、市役所にもお願いしても情報がもらえなくなってきた。民生委員になっても活動しづらい。〕

〔・個人情報保護のカベを超えるには、1件ずつ訪問して、何度も通って、地域の催しなどに誘って、少しずつ口コミで広がってという、地道な活動を続けるしかない。〕

【防災体制】

《水色》

○浸水の可能性が高いとされている地域の避難体制は充分整っているのか。避難の基準になる水位などは定まっているのか。

《ミルクィのど飴》

〔・小学校の空き教室を活用して、災害時の備蓄をすれば良い。〕

〔・市役所が中心になる新しい防災組織が必要だ。災害時には自治会等の各団体に指示できるようなもの。〕

【防災情報伝達】

《水色》

○災害でインターネットや携帯も使えなくなった時に備えて、地域に掲示板などアナログな通信網の構築が必要。

《ミルキーのど飴》

○災害で道路が通れなくなったら、携帯など持たない高齢者に情報を伝えられなくなる。防災無線が必要だ。

○洪水の危険が高まってきた時、洪水になった時など、状況に応じてサイレンの鳴らし方を工夫する。

[・主要避難所からサイレンが鳴るようにすれば良い。]

[江別駅周辺]

《ミルキーのど飴》

○江別駅を市のコミュニティー会場にして欲しい。

- ・江別駅前のみらいビルが空っぽなのは周りに買い物する場所もないからだ。
- ・Aコープが撤退したら江別駅付近の住民は買い物難民になってしまう。
- ・買い物難民解決のために無料バスを走らせたりすることで、地域のつながりが生まれてくるのではないか。

[まちづくり全般]

《ミルキーのど飴》

- ・江別は比較的財政が健全と言われるが、お金を使っていないだけで、そのせいで特徴がないのではないか。
- ・開業医をもっと活用すべきだ。